



TITLE:

# O-minimal 構造での仮想元消去(特異点論とオーミニマルカテゴリー)

AUTHOR(S):

米田, 郁生

---

CITATION:

米田, 郁生. O-minimal 構造での仮想元消去(特異点論とオーミニマルカテゴリー). 数理解析研究所講究録 2007, 1540: 91-98

ISSUE DATE:

2007-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/80657>

RIGHT:

# O-minimal 構造での仮想元消去

東海大学理学部数学科 米田郁生 (Ikuo Yoneda)  
Department of mathematics, Tokai University

## 1 仮想元とは？

構造  $(\mathbb{Z}, +, \cdot, 0, 1)$  において

$$E((x, y), (u, v)) \equiv y \neq 0 \wedge v \neq 0 \wedge x \cdot v = y \cdot u$$

は、 $\mathbb{Z} \times (\mathbb{Z} - \{0\})$  に同値関係  $E$  を与える。

明らかに  $\frac{x}{y} \in \mathbb{Q}$  がこの同値関係の 1 クラスに対応する。

構造  $M$  において、一階論理式で定められた同値関係  $E(\bar{x}, \bar{y})$  に対し  $\bar{a} \in M$  の  $E$ -同値類  $\bar{a}_E$  と書く。このような  $\bar{a}_E$  を元とみなし、“仮想元”と呼ぶ。仮想元全部を付加した構造を  $M^{\text{eq}}$  と書く。例： $\mathbb{Q} \subseteq (\mathbb{Z}, +, \cdot, 0, 1)^{\text{eq}}$ 。

### 【仮想元の働き】

definable set を coding する canonical parameter は仮想元で与えられる。

$X = \varphi(\bar{x}, \bar{a})^M$  とするとき、

$$E(\bar{y}, \bar{z}) \equiv \forall \bar{x} (\varphi(\bar{x}, \bar{y}) \leftrightarrow \varphi(\bar{x}, \bar{z}))$$

は definable な同値関係で

$\sigma \in \text{Aut}(M)$  に対し

$$\sigma(X) = X \Leftrightarrow \sigma(\bar{a}_E) = \bar{a}_E$$

が成立。この  $\bar{a}_E$  が definable set  $X$  を coding する canonical parameter.

### 【仮想元消去】

仮想元消去とは、任意の definable set  $X = \varphi(\bar{x}, \bar{a})^M$  に対する、先の  $\bar{a}_E$  の代わりに、有限列  $\bar{b} \in M$  が存在し

$$\sigma(X) = X \Leftrightarrow \sigma(\bar{b}) = \bar{b}$$

となる場合である。

例えば、代数閉体において代数多様体は最小定義体を持つので、代数閉体は、仮想元消去を持つ。

正確な仮想元消去の定義: 「任意の  $\bar{a}_E \in M^{\text{eq}}$  に対し、

$$\sigma(\bar{a}_E) = \bar{a}_E \Leftrightarrow \sigma(\bar{b}) = \bar{b} \ (\forall \sigma \in \text{Aut}(M))$$

となる有限列  $\bar{b} \in M$  が存在するとき」

## 2 O-minimal 構造の重要事項

- $M = (M, <, \dots)$  が O-minimal とは、  
 $<$  が dense linear order,  $M$  は最小元、最大元を持たず,  $M$  の definable subset が点と开区間の有限和集合に限るとき。
- $C \subseteq M^n$ : cell は  $n$  に関し inductive に定義される。  
 $C \subseteq M$ : cell  $\Leftrightarrow C$  は一点、または开区間。  
 $C \subseteq M^{n+1}$ : cell  $\Leftrightarrow C = \{(\bar{a}, f(\bar{a})) : \bar{a} \in D \subseteq M^n\}$  または  $C = \{(\bar{a}, b) : f(\bar{a}) < b < g(\bar{a}), \bar{a} \in D \subseteq M^n\}$  の形。  
ここで  $D \subseteq M^n$ : cell で  $f, g$  は  $D$  上の definable な連続関数。  
注: open box が開基底。
- (Cell decomposition)  
 $X \subseteq M^n$ : A-definable  $\Leftrightarrow X$  は A-definable cells の有限 disjoint union.
- $C$ : cell,  $X$ : definable で  $X \subset C$  ならば、 $X$  は  $C$  内に境界点を持つ。  
(i.e.  $\bar{a} \in C$  で、 $\bar{a}$  を含む任意の open box  $B$  に対し、 $(B \cap C) \cap X \neq \emptyset$  かつ  $(B \cap C) - X \neq \emptyset$  を満たすものがある.)

**Fact 2.1** O-minimal 構造  $M$  での A-definable な同値関係で open set を含むクラスは A-definable で有限個。

$E(\bar{x}, \bar{y})$  を  $A$ -definable な同値関係とする。

$X$  を「 $\bar{a} \in X \Leftrightarrow \bar{a}$  のある開近傍は一つの  $E$ -クラスに含まれる」で定まる  $A$ -definable set とする。

$X = \bigcup_i C_i$  と  $A$  上 cell 分解する。  $Y$  を open set を含む  $E$ -クラスとする。

$Y \cap X \neq \emptyset$  より

**Claim 1**  $Y \cap C_i \neq \emptyset$  ならば  $C_i \subseteq Y$ .

$C_i \not\subseteq Y$  ならば  $C_i \cap Y \neq C_i$ .  $C_i$  は cell より  $Y$  との境界点  $\bar{a} \in C_i$  を持つので、 $\bar{a}$  の任意の開近傍  $U$  に対し  $U \cap Y$  と  $U - Y$  は共に空でない。しかしこれは  $\bar{a} \in X$  に反す。

**Claim 2**  $Y$  は  $A$ -definable.

$C_i \cap Y \neq \emptyset$  のとき “ $\bar{a} \in Y \Leftrightarrow \exists \bar{x} \in C_i (E(\bar{x}, \bar{a}))$ ” と  $Y$  が  $A$  上 definable になる。

□

### 3 O-minimal 構造での Closure

$a \in M, A \subseteq M$  に対し

- $a \in \text{dcl}(A) \Leftrightarrow |\{\sigma(a) : \sigma \in \text{Aut}(M/A)\}| = 1$ .  
dcl...definable closure.
- $a \in \text{acl}(A) \Leftrightarrow |\{\sigma(a) : \sigma \in \text{Aut}(M/A)\}| < \aleph_0$ .  
acl...algebraic closure.
- $(M, <, \dots)$  で “ $<$ ” が linear order ならば  
「orbit 有限のとき何番目の元か特定できる」ので  $\text{acl}(*) = \text{dcl}(*)$ .

### 4 O-minimal 構造での次元

次元を Cell, definable set, type の順に与える。

- $C \subseteq M$ : cell に対し  
 $\dim(C) = 1 \Leftrightarrow C$ : open interval  
 $\dim(C) = 0 \Leftrightarrow C$ : 一点

- $C \subseteq M^{n+1}$ :cell に対し  
 $C = \{(\bar{a}, f(\bar{a})) : \bar{a} \in D \subseteq M^n\}$  のとき、

$$\dim(C) = \dim(D).$$

- $C = \{(\bar{a}, b) : \bar{a} \in D \subseteq M^n, f(\bar{a}) < b < g(\bar{a})\}$  のとき、

$$\dim(C) = \dim(D) + 1.$$

- $X$ :definable set に対し  
 $\dim(X) := \max\{\dim(C) : C \text{ は } X \text{ の cell 分解で出てくる cell}\}.$
- $\bar{a} \in M, A \subset M^{\text{eq}}$  に対し、 $A$  上の  $\bar{a}$  の type の次元を  
 $\dim(\bar{a}/A) := \min\{\dim(X) : \bar{a} \in X \text{ is } A\text{-definable}\}$  と定める。  
 注:  $A$  上の  $\bar{a}$  の type とは、 $\text{tp}(\bar{a}/A) = \{X : X \text{ is } A\text{-definable and } \bar{a} \in X\}.$

**Fact 4.1**  $\dim(a_1, a_2, \dots, a_n/A) = m (\leq n)$  のとき、 $a_1, a_2, \dots, a_n$  を並べかえて以下のようにできる。

- $a_i \notin \text{dcl}(Aa_1, \dots, a_{i-1})$  ( $i \leq m$ )
- $a_j \in \text{dcl}(Aa_1, \dots, a_m)$  ( $j > m$ )

## 5 O-minimal 構造での独立関係

$\bar{a} \in M$  と  $A, B \subset M^{\text{eq}}$  に対し  $\dim(\bar{a}/AB) = \dim(\bar{a}/A)$  のとき

$$\bar{a} \underset{A}{\perp} B$$

と書き、「 $\bar{a}$  と  $B$  は  $A$  上独立である」という。

**Fact 5.1**  $\bar{a}, \bar{b} \in M$  と  $A, B, C \subset M^{\text{eq}}$  に対し

- (1)  $\bar{a} \underset{A}{\perp} \bar{b} \Leftrightarrow \bar{b} \underset{A}{\perp} \bar{a}.$
- (2)  $\bar{a} \underset{A}{\perp} BC \Leftrightarrow \bar{a} \underset{A}{\perp} B, \bar{a} \underset{AB}{\perp} C.$
- (3)  $\bar{a}$  と  $A \subset B$  に対し  $\sigma(\bar{a}) \underset{A}{\perp} B$  となる  $\sigma \in \text{Aut}(M/A)$  がある。
- (4)  $\bar{a} \underset{A}{\perp} \bar{a}$  ならば  $\bar{a} \subseteq \text{dcl}(A).$

**Definition 5.2** *O-minimal* 構造  $M$  が

共通部分上の独立性を持つ ( $IND/I$ ) とは任意の  $\bar{a}, A, B \subset M$  に対し

$$\bar{a} \downarrow_A B, \bar{a} \downarrow_B A \Rightarrow \bar{a} \downarrow_{\text{dcl}(A) \cap \text{dcl}(B)} AB$$

が成立するとき。

**Theorem 5.3** *O-minimal* 構造  $M$  が  $IND/I$  を持つならば、 $M$  は  $E.I.$  を持つ。

*Proof.*  $e = \bar{a}_E \in M^{\text{eq}}$  とする。  $\sigma, \tau \in \text{Aut}(M/e)$  を  $\sigma(\bar{a}) \downarrow_e \bar{a}, \tau(\bar{a}) \downarrow_e \bar{a}, \sigma(\bar{a})$  となるようにとれる。以下、簡単のため  $\bar{b} := \sigma(\bar{a}), \bar{c} := \tau(\bar{a})$  と書く。  $\bar{a} \downarrow_{\bar{b}} \bar{c}, \bar{a} \downarrow_{\bar{c}} \bar{b}$  と  $IND/I$  から  $\bar{a} \downarrow_A \bar{b}, \bar{c}$  ( $A := \text{dcl}(\bar{b}) \cap \text{dcl}(\bar{c})$ )。

$e \in \text{dcl}^{\text{eq}}(\bar{a}) \cap \text{dcl}^{\text{eq}}(\bar{b})$  より  $e \downarrow_A e$ . 従って  $e \in \text{dcl}^{\text{eq}}(A)$ .

一方、  $\bar{b} \downarrow_e \bar{c}$  より  $A \subset \text{dcl}(e)$ . 従って  $\text{dcl}^{\text{eq}}(e) = \text{dcl}^{\text{eq}}(A)$ .

□

仮想元消去を導く条件として次も知られている。 [P]

**Fact 5.4** 任意の  $A \subset M$  に対し

$\text{dcl}(A)$  が  $M$  の部分モデルならば  $M$  は  $E.I.$  を持つ。

**Example 5.5** (1)  $(\mathbb{Q}, <), (\mathbb{Q}, <, +)$  は  $IND/I$  より  $E.I.$  が分る。

(2)  $(\mathbb{Q}, <, +, 1)$ ,  $RCF$  は上の *Fact* から  $E.I.$  が分る。

(3)  $+$  を言語として加えずに

$$E((x, y), (u, v)) \equiv x + y = u + v$$

として  $E$  を解釈する構造  $(\mathbb{Q}, <, E)$  は  $E.I.$  なし。

*Proof.* (3):  $a, b, c \in \mathbb{Q}$  は独立とする。  $E((a, b), (c, d)), d \in \mathbb{Q}$  とするとき、  $(a, b)$  の  $E$ -class は  $ab$ -definable かつ  $cd$ -definable. もし  $E.I.$  があつたならば、  $(a, b)$  の  $E$ -class は  $\text{dcl}(ab) \cap \text{dcl}(cd)$ -definable. しかし、  $\text{dcl}(ab) \cap \text{dcl}(cd) = \emptyset$  より矛盾。

□

**Question 5.6** *O-minimal* 構造で、  $E.I. \Rightarrow IND/I$  ?

## 6 Canonical base

$\bar{a} \subset M$  と  $A \subset M^{\text{eq}}$  に対し

$$\dim(\bar{a}/A) = \dim(\bar{a}/A_0)$$

となる最小の  $A_0 = \text{dcl}^{\text{eq}}(A_0)$  を  $\text{tp}(\bar{a}/A)$  の Canonical base と呼び

$$\text{Cb}(\bar{a}/A) = A_0$$

と書く。Canonical base が常に存在するとは限らない。(Example 6.3)

**Remark 6.1** *O-minimal* 構造  $M$  に対し

$E.I +$  常に Canonical base を持つ  $\Rightarrow IND/I$ .

*Proof.*  $\bar{a} \perp_A B, \bar{a} \perp_B A, A = \text{dcl}(A), B = \text{dcl}(B)$  とする。  $A_0 := \text{Cb}(\bar{a}/AB)$  の最小性から、  $A_0 \subseteq A \cap B$ . 従って  $\dim(\bar{a}/AB) = \dim(\bar{a}/A \cap B)$ .

□

以下は [P1] の結果

$\text{tp}(\bar{\alpha}/M)$  に対し  $\bar{\alpha} = \bar{a}\bar{b}, \dim(\bar{\alpha}/M) = \dim(\bar{a}/M) = |\bar{a}|, \bar{b} \subset \text{dcl}(M\bar{a})$  と仮定してよい。(Fact 6.2 の証明で  $\bar{a} \perp M$  をしばしば用いる)  
 $f(\bar{x}, \bar{y})$  を  $f(\bar{a}, \bar{m}) = \bar{b} (\bar{m} \subset M)$  となる  $\emptyset$ -definable (partial) function とする。

$E_{f, \bar{a}}(\bar{m}_1, \bar{m}_2) \Leftrightarrow$  「 $\bar{a}$  の或る開近傍  $U$  で  $f(\bar{x}, \bar{m}_1), f(\bar{x}, \bar{m}_2)$  は共に定義され  $U$  上で等しい」 または 「 $\bar{a}$  の或る開近傍で  $f(\bar{x}, \bar{m}_1), f(\bar{x}, \bar{m}_2)$  は共に定義されていない」と定める。 $E_{f, \bar{a}}$  は  $\bar{a}$ -definable な同値関係。

**Fact 6.2**  $d = \text{dcl}(d) \subset M$  に対して

$$d = \text{Cb}(\bar{a}\bar{b}/M) \Leftrightarrow \text{dcl}(d, \bar{a}) = \text{dcl}(\bar{m}_{E_{f, \bar{a}}}, \bar{a}).$$

注意 :  $\bar{m} \subset M$  だが、  $\bar{m}_{E_{f, \bar{a}}} \subset M$  とは限らないので  $\text{dcl}(d, \bar{a}) = \text{dcl}(\bar{m}_{E_{f, \bar{a}}}, \bar{a})$  となる  $d = \text{dcl}(d) \subset M$  が存在するとは限らない。

*Proof.* ( $\Rightarrow$ ):  $d = \text{Cb}(\bar{a}, \bar{b}/M) \subset M, \dim(\bar{a}) = \dim(\bar{a}/M) = |\bar{a}|, \bar{b} \subset \text{dcl}(M\bar{a})$  とする。 $f, g$  を  $f(\bar{a}, \bar{m}) = \bar{b}, g(\bar{a}, d) = \bar{b}$  となる  $\emptyset$ -definable function とする。

**Claim 3**  $\bar{m}_{E_{f, \bar{a}}} \in \text{dcl}(\bar{a}, d)$ .

$\bar{a} \perp \bar{m}, d$  かつ  $f(\bar{a}, \bar{m}) = \bar{b} = g(\bar{a}, d)$  より  $\bar{a}$  の開近傍  $U$  上で  $f(\bar{x}, \bar{m}) = g(\bar{x}, d)$ .  
 $\sigma \in \text{Aut}(\mathcal{M}/\bar{a}, d)$  とすると  $\sigma(U)$  上でも  $f(\bar{x}, \sigma(\bar{m})) = g(\bar{x}, d)$ . 従って  $\bar{a}$  の開近  
 傍  $U \cap \sigma(U)$  上で  $f(\bar{x}, \bar{m}) = f(\bar{x}, \sigma(\bar{m}))$  より  $\bar{m}_{E_f, \bar{a}} = \sigma(\bar{m})_{E_f, \bar{a}}$ .

**Claim 4**  $d \in \text{dcl}(\bar{a}, \bar{m}_{E_f, \bar{a}})$ .

$\sigma \in \text{Aut}(\mathcal{M}/\bar{a}, \bar{m}_{E_f, \bar{a}})$  とする。  $\bar{a}$  の或る近傍  $U$  上で  $f(\bar{x}, \bar{m}) = f(\bar{x}, \sigma(\bar{m}))$ .  
 $\bar{a}$  の近傍  $U'$  を  $U' \subseteq U \cap \text{tp}^{\mathcal{M}}(\bar{a}/\bar{m}, d) \cap \text{tp}^{\mathcal{M}}(\bar{a}/\sigma(\bar{m}), \sigma(d))$  とし、  $\bar{a}' \in U'$  を  
 $\dim(\bar{a}'/\bar{m}, d, \sigma(\bar{m}), \sigma(d)) = |\bar{a}'|$  となるものをとる。  $\bar{a}' \in U$  より  $\bar{e} := f(\bar{a}', \bar{m}) =$   
 $f(\bar{a}', \sigma(\bar{m}))$  とすると  $\text{Cb}(\bar{a}, \bar{b}/M) = \text{Cb}(\bar{a}, \bar{b}/d) = d = \text{Cb}(\bar{a}', \bar{e}/d)$  かつ  $\sigma(d) =$   
 $\text{Cb}(\bar{a}', \bar{e}/\sigma(d))$ .

一方、  $\dim(\bar{a}', \bar{e}/d, \sigma(d)) = |\bar{a}'|$  より  $d = \text{Cb}(\bar{a}', \bar{e}/d) = \text{Cb}(\bar{a}', \bar{e}/d, \sigma(d)) =$   
 $\text{Cb}(\bar{a}', \bar{e}/\sigma(d)) = \sigma(d)$ .

( $\Leftarrow$ ):  $e \in M, \dim(\bar{a}, \bar{b}/e) = \dim(\bar{a}, \bar{b}/M)$  ならば  $d \in \text{dcl}(e)$  を示せばよい。

**Claim 5**  $\bar{m}_{E_f, \bar{a}} \in \text{dcl}(\bar{a}, e)$ .

$b \in \text{dcl}(\bar{a}, e)$  より、任意の  $\sigma \in \text{Aut}(\mathcal{M}/\bar{a}, e)$  に対し、  $f(\bar{a}, \bar{m}) = b = \sigma(b) =$   
 $f(\bar{a}, \sigma(\bar{m}))$  と  $\bar{a} \perp \bar{m}, \bar{a} \perp \sigma(\bar{m})$  より  $\bar{m}_{E_f, \bar{a}} = \sigma(\bar{m})_{E_f, \bar{a}}$ .

仮定より  $d \in \text{dcl}(\bar{a}, e)$ . ここで  $d \perp_e \bar{a}$  より  $d \in \text{dcl}(e)$  が分る。

□

**Example 6.3**  $\alpha \in \mathbb{R} - \overline{\mathbb{Q}}$  とする。  $(\mathbb{R}, +, 0, 1, \alpha(*))|(-1, 1)$  では *canonical base*  
 を持たない *type* がある。

*Proof.* Big model  $\mathcal{M}' \succeq (\mathbb{R}, +, 0, 1, \alpha(*))$  に対し、  $\alpha(*)$  の定義域を  $(-1, 1)$  に  
 制限した reduct model を  $\mathcal{M}$  と書く。

$a, b, c \in \mathcal{M}' > \mathbb{R}$  を  $|a - b| < 1, |c - \alpha(b)| < 1, \dim'(a, b, c) = 3$  と取る。

$$d := \alpha(a - b) + c$$

とおくと  $\dim'(a, d/b, c) = \dim(a, d/b, c) = 1$ .

また  $c - \alpha(b) = d - \alpha(a) = \text{Cb}'(a, d/b, c)$  が分る。

$(f(x, y, z) = z + \alpha(x - y))$  とすると  $d = f(a, b, c)$  と  $\text{dcl}((b, c)_{E_f, a}) = \text{dcl}(c - \alpha(b))$   
 より分る)

**Claim 6**  $\text{Cb}(a, d/b, c)$  は存在しない。



$\sigma \in \text{Aut}(\mathcal{M}/a, d)$  に対し

$\alpha(a - b) + c = d = \sigma(d) = \alpha(a - \sigma(b)) + \sigma(c)$  より

$E_{f,a}((b, c), (\sigma(b), \sigma(c)))$ . もし  $D := \text{Cb}(a, d/b, c)$  が存在したならば  $\text{dcl}(D, a) = \text{dcl}((b, c)_{E_{f,a}}, a) \subset \text{dcl}(a, d)$ .

また  $\text{Cb}'(a, d/b, c) \subseteq \text{dcl}'(D)$  より  $c - \alpha(b) \in \text{dcl}'(a, d)$ . ここで  $|c - \alpha(b)| < 1$  より  $\text{dcl}(c - \alpha(b)) = \text{dcl}'(c - \alpha(b)) \subseteq \text{dcl}'(a, d)$  となり、 $d - \alpha(a) = c - \alpha(b) \in \text{dcl}(a, d)$ . 特に

$$\alpha(a) \in \text{dcl}(a, d).$$

$a \perp' d$  より  $\alpha(a) \perp'_a d$ . よって  $\mathcal{M}$  で  $\alpha(a) \perp'_a d$  より  $\alpha(a) \in \text{dcl}(a)$  となり矛盾。

□

## 参考文献

- [P] A.Pillay, Some remarks on definable equivalence relations in O-minimal structures, JSL, 51, 1986, pp.709-714
- [P1] A.Pillay, Canonical bases in O-minimal and related structures, 2006, preprint.
- [Y] Ikuro Yoneda, Forking and some eliminations of imaginaries, 2006, submitted.